

小-42

### 口角部扁平上皮癌摘出後の口唇欠損を後耳介動脈軸状皮弁および転位皮弁で再建した犬の1例

○谷川慶一<sup>1)</sup> 丹羽昭博<sup>1)</sup> 前谷茂樹<sup>2)</sup> 廉澤 剛<sup>1)</sup>

1) 酪農大附属動物医療センター 2) まえたに動物病院

【はじめに】犬の顔面部の皮膚欠損再建は、腫瘍の根治的切除後や外傷の閉鎖、熱傷等の皮膚損傷に対して必要となり、欠損部位の機能の温存と顔貌の変化が重要となる。今回我々は、口角部扁平上皮癌に対し尾側上顎骨切除と片側下顎骨切除による根治的切除後に生じた広範囲な口唇欠損に後耳介動脈を温存した軸状皮弁および転位皮弁を適用し再建を試みたので、その概要を報告する。

【症例】ウエスト・ハイランド・ホワイトテリア、12歳齢、避妊雌、体重5.36 kg。9カ月前より左口角に腫瘤を認め1カ月前より開口時に疼痛を認めたため紹介病院を受診した。紹介病院でのCT検査にて腫瘤は左口角に発生し歯列外側の上顎臼歯領域と左下顎犬歯より下顎枝への拡がりを確認した。病理組織学的検査にて扁平上皮癌と診断され治療のため本院受診された。

【手術】左上顎第1前臼歯より第2後臼歯領域での尾側および片側下顎骨を、同レベルの口唇および皮膚を含め切除し、口角領域は腫瘤より側方1 cm マージンを含め切除した。広範囲口唇欠損を認めたため、上顎口唇欠損領域に皮弁基部の中心を第一頸椎横突起（環椎翼）上にした後耳介動脈を温存した軸状皮弁を用い、下顎領域には隣接している尾側皮膚の転位皮弁を用い、上顎および下顎の皮弁にて口角の再建を実施した。手術に併せて胃瘻チューブを設置した。術後1日目に上顎皮弁頭背側辺縁の一部に黒色化を認め、さらに感染が生じ術後9日目に上顎皮弁壊死部を切除し伸展皮弁にて再建した。初回術後より口角欠損によって採食困難が認められていたため、再手術後19日目に口角形成手術を実施した。再々術後より採食は改善し経過は良好である。

【考察】上顎口唇および口角部の広範囲な欠損に対して、後耳介動脈を温存した軸状皮弁による再建は顔貌の点からも有用と考えられた。しかし、皮弁の血流がどこまで確保されているかの判断は難しく、また口腔周囲は細菌感染を起こしやすい部位であるため術後の経過には注意が必要である。